

最上川から独立させた赤川の新川 榊田清兵衛の功績、京田川でも参考に

赤川で、記録にある最初の本格的な工事は、最上義光が庄内を領有（1601年〜22年）していた頃、扇状地頂部の熊出付近で赤川を締め切り、鶴岡に向かっている流路を東側に変えて、城下一帯を水害から守ったとされます（図上・国土交通省）。

立させ、新川掘削による日本海への直接放流工事は、1921（大正10）年計画変更、27（昭和2）年通水、36（昭和11）年護岸工事が終了しました。

当時、最上川、赤川、京田川の合流点に近い広野村・袖浦村（現酒田市）は、洪水に悩まされ続

けていました。広野村では、佐藤文治が中心となって、1899（明治32）年から

赤川の放水路開削

赤川を最上川から独

に悩まされ続



榊田清兵衛
(1864〜1929)



榊田清兵衛の功績を讃えて
昭和3年に建設された石碑

最大の転機

3年をかけて京田川に堤防を築き、1904（明治37）年には袖浦村と共同で赤川筋に排水溝を造るなどの洪水対策に取り組んでいました。

しかし洪水が収まることはなく、1917（大正6）年に最上川改修工事の付帯事業として、赤川の拡幅工事が計画されましたが、そのために30数軒の家屋が移転、280軒に及ぶ農地が削減される。地元では、削減をできる限り縮小してほしいと陳情、嘆願を繰り返したが、受け入れてもらえませんでした。

また同社の鶴岡駐在員から、赤川拡幅工事計画が農民たちを苦しめていることを聞き、この計画には無理があると感じ、工事を新川掘削に変更することが最善策であると考え、政府に働きかけました。

地元有志も陳情を続け、ようやく1921（大正10）年、計画の変更が決定されました。

田んぼを潰すかわりに砂丘を掘って、新しい川を作る工事に着手、この治水工事により赤川は最上川から独立した川になり、洪水対策の最大の転機になりました。

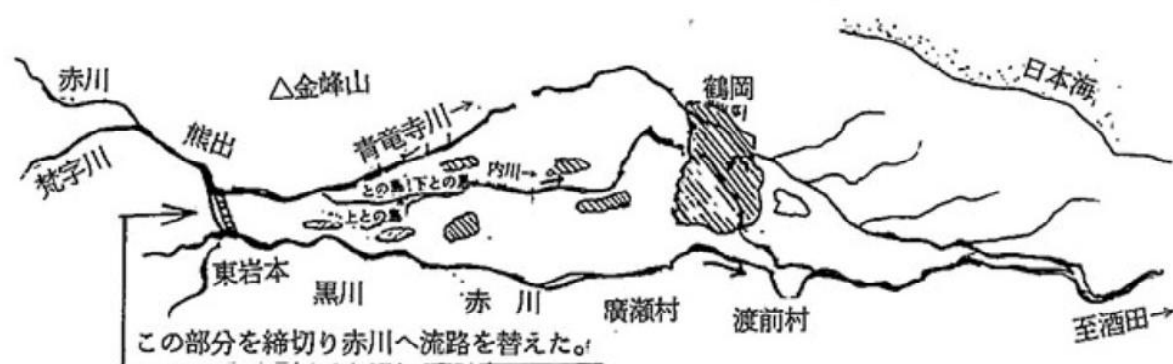
この苦境を救ったのは、秋田県大曲出身の衆議院議員・榊田清兵衛です。

1928（昭和3）年11月、その功績をたたえ、酒田市奥井の三所神社境内に「榊田清兵衛翁碑」が建立されました。

住民要望である京田川の最上川分離でも、参考にすべきでしょう。

8（大正7）年、社用で訪れた庄内で、たまた

◎ 慶長7年（1602）頃の赤川の流路の変遷略図



慶長7年（1602）頃の流路の変遷略図
※出典 東北の河川



放水路の開削による流路の変遷
資料：国土交通省「赤川」から

渡前小子ども獅子踊り今昔物語

藁(わら)文化の里 ⑥

渡前獅子踊り保存会 太田 功

40年以上前にさかのぼる。当時、大分県知事平松守彦氏が提唱する「一村一品運動・全国シンポジウム」に参加するため、大分県に飛んだ。

既に東京に一極集中の気配があった中で、地元の環境を保全しつつ、それぞれの地域の風土や地形に合った今ある資源を生かして発展させようと、大分県全域に町づくり運動を促したものだ。

大分県内の各地から集まったパネラーとなった生産者や地域活動者が、人口減少・若者

流出を憂い悲嘆する話題でなく、生き生きとわが町自慢を力説していた。

その運動、諸説はあるが宮崎県綾町(町が有機認証認定機関)が先に進めていた「一坪菜園運動」と、大分県大山町(現在は編入合併で日田市)の「NPC運動・梅栗植えてハワイに行こう」がルーツとされる。どちらの町も林業の盛んな山間部である。

そのシンポジウムを終えた翌日、運動の起源の一つ梅栗の創設者矢幡治美氏宅を訪問。

長男の欣治氏が対応し、話に熱がこもり、泊ま

って行けと、後半は牡丹鍋、かぼす、焼酎が登場。藤島から出向いた青年達は朝焼けを見ることがになった。地元を愛し、誇れる産物に気づくこと。何度も強調した。

その頃藤島でも、前述した月山麓で野菜を作付し、加工する農事法人や加工グループが盛んに活動した。

大分同様、消費者に向けて、1次2次3次産業を複合的に掛け合わせて付加価値を高めた6次産業化が加速す

贈高朋

高朋に贈る

城貞(藤の花)

朱邸森羅涼暗傳

朱邸 森羅 涼 暗に傳う

尋香粉蝶緑陰前

香を尋ね粉蝶 緑陰の前

妻孥朋友無人訪

妻孥朋友 人の訪う無し

坐向松窓易惘然

坐して松窓に向て惘然たり易し

立派な屋敷には木木がならび茂っていて、何となく涼しい感じが感じられる。

紋白蝶が若葉の影に芳香を求めて止まっている。

妻、子供、友達、誰も訪れる人がいない。

こんなときに松の木の見える窓辺に座って ただぼんやりとしているのだ。

高朋 高尚。けだかい。上品な。

贈る 〓 さしあげる。

朱邸 〓 りっぱなやしき。

森羅 〓 木木がならび繁る。

粉蝶 〓 紋白蝶(モンシロチョウ)。

妻孥 〓 妻と子。

向 〓 むかい。於と同じ。

松窓 〓 まつの木の見える窓辺。

惘然 〓 ぼんやりするさま。



る。

農協園芸特産課では農家女性をとりまとめ、ふるさとクーボンの発送や産直など後押しした。

先に学校での獅子踊り活動を進めていた東栄小と、初代の渡前小子ども獅子の両者が、東田川郡会議事堂明治ホールでの披露にこぎつけられたのは、千葉大学宮崎清教授と藁工芸部会のお陰だが、その日に来場者にふるまう芋煮を準備し賑わいを作ってくれたのが、加工クラブ青空代表成

きびちよ



姉妹喧嘩は怖いよ

姉妹喧嘩が、天下の巨人軍の監督を首にした。子ども同士の喧嘩に親が止めに入るのは、どこにでもあることだから、仲裁に入った親が逮捕とはどんな仲裁だったんだか。

▲普通逮捕となれば48時間拘束され、家に帰されるか拘留されるかになると覚えているんだが、これはその夜というより数時間で帰されたのだから、送検はないだろうと思っていたが、書類は裁判所に送られたとの報道だ。ここで起訴か不起訴かに判断されることになるんだが、どうもこの事件、どっか流れがおかしいのでは・と。

▲というのは、父親が出るから手を出せば、暴力という事にも。だから、母親は不在だったんだな。だから、相談する相手がスマホか

澤久子さん)の皆さんだ。

地元愛にあふれ、サービスが良すぎ、山盛りの鍋から、湾曲した階段に滴たり落ちた。

：(つづく)



(宮崎清教授・藤島の藁文化で講演)

何か道具だったんだろ。その道具が教えた相談先が児童相談所だったと。そこから警察に連絡され、逮捕となった。

▲しかし、現行犯逮捕となっていないから、警察が行った時は一応おちついていただろう。だから聞き取りだ。それでも親子喧嘩では済まされないものがあったんかね。父親は有名人なのだし、警察に連絡が来るようなことをするんじゃないヨ、くらいでは終わらせられなかったのかな。▲それでテレビ・ラジオだ。報道が早かった。ま・天下の巨人軍の監督の件だからな。こ